

(1)事業の概要等

令和6年度 事務事業評価シート

事業番号		B2202-3	事務事業名			一般事務事業文化財資料研究委託料				事業期間			昭和63年度以前	～	令和8年度以降				
実施計画事業			担当部			教育委員会事務局				担当課・担当係			文化財課文化財係						
実施計画事業以外の事業		○	担当部			教育委員会事務局				担当課・担当係			文化財課文化財係						
事業の概要	小牧市まちづくり推進計画(R5年～R8年)	分野別計画編	基本 施策	22	展開 方向	2	事業・予算区分		一般事業	款	10	項	5	目	6	大	2	中	1
	根拠法令 ・個別計画	—							対象 (何・誰を対象に)	小・中学生対象									
	目的 (何のために)	小牧市内の文化財資料の発掘、調査研究を推進することを目的とし、市内の文化財資料の発掘・調査研究、文化財の活用に関する企画立案、文化財関係刊行物の執筆・編集等を進める。							内容 (どのような方法で)	○実施内容 小・中学校の教員で構成される小牧市文化財資料研究会に委託して以下の2つの事業を実施。 ・こまき検定の企画・運営 身の回りの歴史や文化に興味関心を持ってもらうため、小・中学生を対象としてこまきに関する検定を実施する。 ・文化財の調査・研究 市内の歴史について、2ヵ年をかけて取材・執筆・校正、と書籍の原稿作成を行う。(書籍印刷は委託事業ではなく市が行う)									

(2)事業費

事業費	項目				単位等	R2	R3	R4	R5	R6
	直接経費	決算額	財源	一般財源	千円	608	800	881	831	
				国・県支出金		—	—	—	—	
				その他		—	—	—	—	
			計(A)		608	800	881	831		
			対前年比		%	—	131.58%	110.13%	94.32%	
		予算額		千円	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	
	人件費	正規職員		人	0.1	0.1	0	0		
		正規職員(平均賃金)		千円	749	749	0	0		
		その他職員		人	0	0	0.1	0.1		
		その他職員(時給×時間)		千円	0	0	227	227		
		計(B)		千円	749	749	227	227		
	事業費合計(C=A+B)				千円	1,357	1,549	1,108	1,058	

(3)業績

展開方向における指標の推移	基本施策	22	指標名		単位	方向性	基準値	R5	R6	R7	R8
	展開方向	2	1	指定文化財の件数	件	↗	44	43			
			2	講座や展示、ワークショップ等への参加者数	人	↗	37,137	38,181			
			3								

指標	指標ほか		単位		R2	R3	R4	R5	R6
	成果指標	こまき検定の参加人数	回	目標					
				実績	27	32	23	20	
		書籍の発行冊数	冊	目標	—	—	—	—	—
				実績	0	500	0	0	
	活動指標	研究員会の開催数	回	目標	—	—	—	—	—
				実績	9	11	10	10	
		こまき検定の回数	回	目標	1	1	1	1	1
				実績	1	1	1	1	
	単位あたり 事業費	受益者数(a)		人	—	—	—	—	
		受益者あたり事業費(=C/a)		円	—	—	—	—	

(4-1)事業の評価

事業の評価	事業の方向性	維 持(改 善)	事業のボリュームは現状規模で維持するものの、手法の改善をするもの						
	事業の達成状況と課題	こまき検定 ・こまき検定は、令和5年度で8回を開催し、総受験者数248名に達した。 ・検定は30問であるが、検定前に60問の予習問題を作成のうえ、HPへ掲載したり、参加賞を工夫するなど、検定への興味関心を引くような実施方法に取り組んでいる。 ・検定の難易度は小学5年生程度を設定しているが、昨年度は小学校2年生が受験したのに加え、合格率は昨年度が最高となった。 ・参加への呼びかけについて、チラシ作成のうえ、全小中学生(13000部印刷)へ配布しているものの、参加者は伸び悩んでいる。 文化財の調査・研究 ・委員のメンバーである教員自身が身近な文化財・伝統などを勉強する機会として、取材等を行い、書籍発行に向け活動し、これまで約50冊の原稿を作成してきた。 共通の課題 ・検定や文化財の調査研究には、打合せ等も含め多くの時間を要し、教員の多忙化解消には逆行している。	今後の実施内容・今後の改善内容	文化財の調査研究 ・令和6年度・7年度は、これまで実施してきた検定の問題のうち約40問について、新たな解説等を加えてまとめる予定。 こまき検定 ・こまき検定は、令和7年度の第10回開催を最後に終了する予定。これまで作成してきた問題についてはHPに掲載する予定で、例えば、校内放送のクイズなどで活用してもらうよう働きかける。 ・文化財の調査研究には準備に多大な時間を要するため、それに代わり、教員の省力化を図りつつ、継続できる内容・方法を検討する。 ・検定の過去問は、子どもたちが楽しんで身近な歴史・文化に触れる機会の創出に役立てるため、令和8年度に開設する(仮称)歴史民俗展示施設において活用策を検討する。					
				改善の有無	有				
	これまでの改善内容	・検定受験者が増加するよう、予習問題をHPで早めに掲載し、啓発期間の確保に努めた。 ・書籍発行については、経験豊かな教員を班長とし、若手教員へ取材や執筆等への指導・助言を入れてもらうなどし、教員の人材育成にも努めながら実施してきた。	事務事業評価						

(4-2)事業継続の可能性(事業のスクラップ可能性)

事業分析	評価項目		評価結果	評価結果を判断した理由
	妥当性	行政が公費を投入して実施することが妥当か(対象を見直すことはできないか)	妥当である	小中学生が郷土の歴史を学ぶ機会を創出する事業として、公費の投入は適当である。
	有効性	廃止・休止した場合に住民が影響を受けるか	多くの住民に影響がある	市内小中学生が、郷土の歴史に興味関心を持つきっかけや、教員が郷土の歴史を調査研究する一つの機会が失われる。
	効率性	サービスを低下させずに総事業費を削減できないか	削減の余地がある	こまき検定を終了することにより、経費の一部を削減できる。
		外部への委託や類似事業との統合により事業費の削減の余地はないか	現状のままでよい	本事業は小牧市の社会科教職員で構成された団体に委託しており、現状のままとしたい。
	公平性	受益者負担は適正か	適正である	こまき検定は、子ども向けであり無料としている。